

所外研修④

「独立行政法人国際協力機構（JICA）研修員と教員の意見交換会」

去る10月27日(火)、特定非営利法人レキオウイングス主催のJICA「課題別研修事業」に所外研修④として教育研究員4名と特別研修員1名が参加しました。

アフリカ9カ国から先月来日した研修員は総勢11名。日本でいうと文部科学省の行政担当者の面々に、当初は当教育研究員一同は緊張していたのですが、いざ意見交換会が始まるとAグループ、Bグループに分かれ活発な話し合いが行われました。

AグループのJICA研修員からは、「アクセスの格差、男女の格差、教師が足りないなどにより、ケニアでは200万人の児童が就学できない状況がある」との報告がありました。また、都市部への人口流出により児童数が足りないという地域もあり、地域間の格差があるとのことでした。

PTAの協力体制やへき地学校での女性教諭不足、学習遅進児への指導について質問が出ました。研究員の比嘉頼子先生は「沖縄の行政は、へき地異動に子育ての時期などを考慮してくれる」「給食時間やお昼の休憩時間を利用して補習指導を実施している」と堂々たるボディランゲージで報告していました。

【意見交流会の概要】

- 1 教育事務所所長挨拶
- 2 意見交換会内容説明
- 3 意見交換会
 - Aグループ
 - 学校に対する保護者と地域の方々のかかわり方（保護者の学校に対する意識、PTA総会への参加、学校への支援等）
 - 学校の規律（生徒指導）について（スローラーナーに対して、いじめに対して、生徒指導に係る報告の仕方等）
 - Bグループ
 - 学校経営について（教育の格差、学校予算、保護者の参加等）
 - 教育課程について（日々の授業方法、校内の規律、授業方法の改善等）



写真1 研修中①



写真2 研修中②

JICA 研修員からの主な質問事項

- ・格差についてよくできる子と学びがおそい子に対してどう対応しているか？
- ・格差について2種類ある学校に通う格差もある。200万人の子どもが就学していない。1クラス80名もいる。その理由として、都市部人口が集中している為である。日本ではどのような対策をしているか？
- ・男女の格差、同じクラスに男女がいると男子の方がアクティブだけど日本ではどのような状況なのか？
- ・女性教員のへき地への移動が難しいが、日本ではどのような対策をしているか？
- ・産休3ヶ月あるが子ども数が多いので1学校に同時に産休に入られると学校が成り立たない、日本ではどのような対策をしているか？
- ・女子の小中での中退が多く、早婚につながっている。女子教育はどうしているのか？
- ・学校の予算はどれぐらいか？また、管理はどうしているか？
- ・先進国なのに幼児教育が義務教育に入っていないのはなぜ？
- ・言語教育はどうやっているの？

今日の研修では、「教育行政としての使命感」をもって参加されているのが熱く伝わってきました。幼児教育を義務教育化しているところには驚きました。と同時に世界でも幼児教育に対して関心をもってらるんだなと感じました。またICT教育にもとても関心が高く、日本の授業改善を参考に教師力を高めようとする意識の高さを感じられました。私のグループでは意見交換が有意義に行われ、司会の方のポイントをしばった質問や会の進め方は、とても勉強になりました。言葉という難しい壁があるけれど、きちんと話をしている人の顔を見たり、相づちをうっているBグループのメンバーをみると、みんなが知りたい！伝えたい！という思いがあることが感じられました。「最も偉大な教師は子どもの心に火をつける」人種が違ってても教育に対する情熱は同じだと強く感じました。(上原亜矢)

JICAの研修生は一人一人熱い思いをもって日本に来ていることが伝わってきました。意見交流の場では、私も一人の沖縄県教員の代表として、自分の考えや現状について述べる事が出来ました。アフリカの教育の現状を知り、驚かされたことも多々あります。ウガンダでは、女性教師も子どもを7人から11人ほど産むので、3ヶ月の産休に入るため学校が成り立たないとのことです。日本では、補充教員がいるおかげで、安心して、産休・育休がとれます。ありがたいことなのだ、改めて感じさせられました。

私たちのBグループでは、意見交換が活発に行われ、有意義なひとときを過ごすことが出来ました。今日の意見交流がアフリカの教育のために、少しでも役に立てればいいなと心から思いました。

私は、サージというブルキナファソの方ととても仲良くなれました。お互い、言葉は通じませんが、ジェスチャーで交流しました。とても楽しくていい思い出になりました。お互いの国について少しでも知ることができこれぞ国際交流だなと感じました。(比嘉頼子)

JICA研修員との交流会では、まず教育事務所の所長のあいさつから始まり、アフリカの国の方々の教育の問題について聞きました。日本と全く状況が違っていて例えば家族の世話のために学校へ行けない子や先生の身分が安定しないため人材がいらないなど日本の教育問題との違いがあり、アドバイスを求められたのですが役に立ったかはわかりませんでした。ただ、日本と違って学校と家庭との距離が離れていると感じました。日本では家庭訪問、授業参観、運動会など、保護者が学校へ足を運ぶ機会が何度かあるのですがある国では参観は禁止されているとおっしゃっていたのでPTAの活動を充実させるためには距離を縮めるための工夫を学校側もしていく必要があるのではないかと思います。ただ、識字率が低く、保護者も参観にきてても何をしているかわからないのではないかと思いますという意見もありました。

(久高友弥)

はじめに、レキオスの理事長さんから「異文化交流のチャンスです有意義な交流にしてください」とお話があり、交流会がスタートしました。はじめは、お互い緊張していましたが、JICAの研修員のみなさんがすごく、教育に対して熱意をもって沖縄に研修しにきていることがすごく伝わってきました。

この交流で、多くの質問を受けましたが、一番印象に残っているのは、幼児教育をやっていない国(ほとんどが3歳から義務教育で無料)はなかったことが驚きでした。汐見先生がお話していたことが世界の流れに、日本はすこし乗り遅れている現実を目の当たりにしました。教師の授業力の向上の為にどのような取り組みをしていますかと?という質問もあり板書計画や課題解決学習といった言葉を伝えるのはすごく難しかったです。(波照間生子)